

第7分科会「八千代と里山」

テーマ：生命をはぐくむ谷津・里山

日 時 平成20年3月16日(日)13:30~16:40

場 所 八千代市総合生涯学習プラザ

参加者 84名

スタッフ 高橋秀文(八千代市環境保全課)、桑波田和子、加藤賢三



内 容

講演1「里山の意味と保全」 講師 東京情報大学教授 ケビン・ショート氏
里山の特徴

- 1 都会と原生自然の間にある豊かな自然。英語ではカントリーサイトと言います。
- 2 人間と自然のバランスは、大都会は9対1、原生自然は1対9、里山は5対5。
- 3 ヨーロッパでは牛がいて、日本では田んぼがある。里山風景は国によって違うが、その国の人にとって美しい原風景となっている。日本は南北に長く、地域によって、風土とか、気象とか、自然とか、文化が全然違う。その地域ならではの里山風景がある。
- 4 文学・美術など、国や地域の文化の中に深く浸み込んでいる。イギリスではピーターラビットを産んだ風景で、都会に住む人達は、カントリーサイドを理想郷のように感じている。
- 5 食文化の宝庫。外国人が、夫婦で餅つきを行っている里山の光景を見ると、日本に触れたと感じる。昔の女性は「あの人と餅をつきたい」と言って気持ちを表現した。
- 6 里山には昔から人が住み、日本でもイギリスでも、萌芽更新で早く木材を利用するなど、自然を利用しながら壊さないという持続可能な暮らしの知恵と知識がある。
- 7 人間と自然を繋ぐ精神文化がある。人間は自然の一部を利用し、自然からの恵に感謝しながら生活してきた。だから自然や資源を大事に出来る。今でも鎮守の森や水神信仰が残っている。
- 8 生物多様性が高い自然環境である。稲作のため水に関わる生物が多い。渡り鳥の中継地となるなど国際的役割を果たしている。
- 9 時間的・金銭的に負担をかけず自然環境に触れることが出来るので環境教育の場として活用できる。
- 10 国民の癒しの場所。現代人は、自然と交流が無いまま暮らしているが、体質的にも精神的にも良くない。ロンドンでは週末には多くの人が里山にカントリーサイドウォーキングに行く。千葉は、東京から電車で40分の所にきれいな里山が残っている。多くの日本人に里山の素晴らしさを体験してもらうことが一番。

里山の保全

里山を保全していくためには、農家の人達の協力無しにはとても無理。NPOが出来るのは、里山の総面積の1割か5%位。里山の大部分は、農業として使いながら保全していくしかない。ヨーロッパでは、新しい農業政策を打ち出し、自然に優しい農業を営む農家に対して助成金を支払っている。農業を生産だけでなく、国の文化遺産、自然遺産を守る公的な仕事として認めている。

日本の農家には、農業をやめるか、または少しでも効率を上げるために自然を壊すような農業をやるかの選択肢しかない。ヨーロッパでは、その間にもう一つの「自然に優しい農業を続けながら生きていく」という選択肢がある。自然に優しい農業は効率の悪い農業。普通の農家は潰れてしまう。自然に優しい農業の方が有利という仕組みを作ることが必要。



講演2 「里山の生物多様性と市民によるモニタリング調査について」

講師 財団法人日本自然保護協会保全研究部 福田真由子氏

生物生息空間としての里山の価値が見直されている。地権者だけでは管理の手が回らない。資金も不足している。生き物や管理の基礎知識が不足している。「地域の里山は地域で守る」という行動が必要である。そのためには、地域の里山を知ること、市民モニタリング調査から始めてはどうか。

調査は、

- 1 できるだけ「長く」「同じ方法」で調査を実施することで、自然の変化を捉え、保全に役立てる長期的なモニタリング調査と、
- 2 保全対策とモニタリングを一体として行うことにより、より効果的な保全を目指す作業を評価するという性格を持っている。調査をするために4つの大項目がある。
 - ①環境変化を引き起こす人間の社会活動を把握する「人為的インパクト」、
 - ②生物の生息基盤となる水・土環境である「無機的环境」、
 - ③地域の構成種である生き物の変化をみる「生物学的環境」、
 - ④地域の価値の共有する「人と自然とのふれあい」。

選び方として、①環境面の適正、②調査員の得意分野、③調査の難易度、④作業労力、を考え決めていくのが望ましい。体制として、地元市民・調査員と地権者・周辺住民が相互に連携を図れるよう地域コーディネーターが必要。また、地域の専門家を交えた調査員の会合、関係者が集まる会合が必要である。

行政の協力としては、①土地の担保・資金的な協力、②調査資料・制度的な協力、③外来種侵入など環境変化への対策、④都市計画・地域計画への反映、などが挙げられる。心得は①無理をしない。粘り強く、細く、長く、②結果をまとめ保全への一歩とする、ことである。



報告1 「西八千代北部特定土地区画整理事業の現状について」

報告者 八千代市都市整備部長 高石正彦

西八千代北部特定土地区画整理事業は、面積 140.5ha で、市でおこなう最も大きい区画整理事業。本格的工事に着手した段階。4月中には、認可の変更に持って行ければと思う。

公園緑地については約 8ha。石神谷津については、できるだけ現状保存していきたい。石神池と調整池を一体化して、親水公園的にしていきたい。南部、北部、西部に近隣公園を設置する。調整池と一体となった整備をする計画。緑地は、南部と北部の近隣公園を結んで連続性を確保する。石神谷津の樹林を一部現況のまま保全する。残土・建設発生土が埋設してある所が何か所かある。地権者個々が捨てたものであるので全て撤去は困難。しかし、地域の住宅地としての機能を失うのである程度は撤去していかなければならない。撤去を行う部分は、宅地になる部分だが、一定の処理を行っていく。公共用地になる部分についても一定の処理を行っていく。県の許可したところもあるので、全て撤去することは無理。建設発生土がある地権者にその負担を求めていく考えである。

報告2 水と緑を守る八千代市の取り組みについて

- (1) 「八千代市の緑の施策について」報告者 八千代市公園緑地課 御山主査 (内容省略)
- (2) 「農地、水、環境保全向上対策事業について」報告者 八千代市農政課 増田主査補 (内容省略)
- (3) 「谷津・里山保全計画の策定について」報告者 八千代市環境保全課 高橋副主幹 (内容省略)

問題点と対策

八千代市内では、都市化による里山面積の急激な減少、管理されない事による荒廃、環境汚染や自然環境の変化、外来生物の増加、生物多様性の喪失、不法投棄等による美しい景観の喪失、などが生じている。しかし希少動植物も生息しており、保全する市民の活動もある。対策として市は、「谷津・里山保全計画」を策定し保全していく。

まとめ

市民団体の活動が広がり、行政との連携が進むなか、保全に向けた取り組みが少しずつ進みつつある。